東雲地区タウンミーティング

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成２４年１２月２１日（金曜）

【市長】　皆さんこんばんは、今日は１年で最も昼の時間が短い冬至でございます。ゆず湯にでも入って温まろうかという時間帯でございますけれども、皆様方には平日、お仕事の後の方もいらっしゃるかと思いますが、こんなにたくさんの方が集まっていただきましてありがとうございます。タウンミーティングの開催に当たりましては、東雲地区広報委員会の白形会長さんをはじめ役員の皆様のご協力をいただいております。心から感謝申し上げます。さてこのタウンミーティングは私が就任させていただいてから始めております。なぜ始めたかというと、どっちが楽かという話をさせていただくと、市役所職員が市役所で座って待ってる、皆さんが来てくださるのを待ってるほうが楽です。でも果たしてそれでいいんだろうか、そうではなくて我々のほうから各地区に出かけていこう、皆さんの声を聞かせていただこうという思いで始めさせていただきました。松山市は公民館本館でいいますと４１地区に分かれます。この各地区ごとに当然課題、問題点、お困りの点、そして各地区に魅力がありますので、それについて語っていただこう、再認識をしていただこうと思いました。まずなぜ魅力かといいますと、例えばその地区の魅力について一番知ってるのは、行政ではなくて、地区に住む皆さんだと思います。例えば行政が主体になってまちづくりをしてしまったら、４１地区どこも金太郎あめのようなまちができてしまう、その集合体である松山市はとてもおもしろくないまちになってしまいます。そうではなくて、各地区にお住いの方々がその地区の魅力を生かしたまちづくりをしていただくと、その地区は輝く、そしてその４１の集合体である松山市はより輝くと言えると思いますので、まず最初に魅力について話していただきます。そしてもちろん問題点、課題点もありますので、お聞かせいただいたらと思います。またこの松山市版のタウンミーティングの特徴ですが、いわゆるガス抜きみたいなタウンミーティングはいたしません。ここでお答えをできることはここでお答えをしますし、中には答えられない、例えば国と絡むもの、県と絡むもの、財政的な問題があるもの、そういうものはここですぐにお答えができないこともございます。そういうものに対しましては、必ず１カ月をめどに地区にお答えを返すことにしております。聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにしないのがこのタウンミーティングの特徴です。それではこのタウンミーティングは市のそれぞれの専門家が来ております。それぞれ自己紹介をいたしますのでよろしくお願いいたします。

【市民部長】　皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミーティングを統括しております。普段の仕事としましては、窓口における行政サービス、市民課、２２支所７出張所、サービスセンター、パスポートセンター、住民主体における地域におけるまちづくり、人権啓発、男女共同参画そういった幅広い仕事をしております。今日はよろしくお願いいたします。

【社会福祉担当部長】　皆様こんばんは、社会福祉担当の大濱でございます。保健福祉全般を担当します。本日はよろしくお願いをいたします。

【都市政策課長】　皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路または公園等の整備及び維持管理を行っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【下水道政策課長】　皆さんこんばんは、下水道部下水道政策課の青木でございます。下水道部では公共下水道の整備による生活環境の改善、下水排水路等の整備による浸水対策いうようなことを所管しております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【環境政策課長】　皆さんこんばんは、環境政策課長の大野と申します。環境部では皆さんが住まわれている生活環境の保全、ごみ問題、地球温暖化対策そういった業務を担当しております。本日はどうかよろしくお願いいたします。

【学習施設課長】　皆さんこんばんは、教育委員会学習施設課の赤松です。当課の業務としましては学校、公民館等の施設の維持管理、建設を担当しております。本日はよろしくお願いいたします。

【市長】　以上の６名でございます。それぞれ今担当が市民部であったり、保健福祉の部門であったり、それぞれ今持ってる仕事があるんですけども、市役所の職員はいろいろな課を経験していますので、できる限り自分たちの持ってる知識でお答えをさせていただきますけれども、間違えたことを言って混乱させてもいけませんので、そういうものはいったん引き取らせてまた１カ月をめどに返答させていただく形になります。今日は東雲のよいまちづくりに向けての話し合いができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】　先ほど市長からごあいさつがあったんですが、早速１つ注文っていいますか苦言を言いたいんですが、お話の中で金太郎あめが出まして、松山じゃ金太郎あめじゃなくておたやんあめだという話でぜひこれから。

【市長】　早速おたやんあめに変えさせていただきます。いいですね、おたやんあめ。

【男性】　よろしくお願いします。東雲地区の魅力ということですが、なかなか当事者としましては自らのよしあしはわかりづらいところがありまして、わがまちの簡単に紹介するということでお話させていただきます。ここ東雲地区は、松山城の東に位置します面積１．２平方キロメートル、約５，１００世帯、人口８，４００人のまちです。昭和５１年には１万２，６００人の人口を数えておりましたが、平成１０年には７，４００人まで減った、現在は１千人程増えて８，４００人になっております。この東雲地区の６５歳以上の高齢者の割合は２６．８パーセントです。松山市の平均が２２．８ですから４ポイントも高いというとこです。一方、１５歳未満、中学生以下の子どもさんは９．９パーセント、松山市の平均が１３．５ですから３．６ポイントも低いということですから、松山市の少子高齢化が進んでる中でもさらに進んでるまちといえるんじゃないかと思います。ご承知のとおり東雲地区のまちの広がりは北は道後一万、南は三番町、東は持田町、西はロープウェイ街ということで大きく区画されておりますが、南北１．６キロメートル、東西１．１キロという範囲であります。この春から全国で愛唱されております「夜明けのブルース」の中の二番町というのはわがまちの南に位置するということでご記憶いただきたいと思います。地区には南北方向に樋又、勝山通り、それから西一万、八坂、ロープウェイ街、東西方向に平和通り、一番町、こういう大きな道が整備されておりますが、おおむね西半分は６０数年前の戦災で消失しております。東半分は戦災を受けておりませんが、特に持田地区を中心として、南北方向の道路事情が非常に悪い、それが非常に残念です。松山の中心でありながら道路事情が悪いところがあるというところです。松山市の中心街であります大街道、湊町、銀天街、あるいは松山市民の憩いの場であります堀之内の方面には、遠い道後一万地区からでも、市内電車でおおむね１５分で行けるという生活上便利な地域です。もちろん道後温泉も、歩いたり市内電車、バスで容易にこの世の極楽を楽しむことができます。また我らが市民の誇りであります松山城天守閣は、ご承知のとおり現存十二天守の１つです。東雲地区のどこからも朝夕望むことができます。城山は毎朝多くの市民が登り、山頂の広場にあって健康の増進あるいは多くの市民との交歓を楽しんでいることにつきましては、皆さんご承知のとおりです。このまちには愛媛大学をはじめ、高等学校３校、中学校３校、小学校２校が所在して、それぞれ長き歴史を重ねて特色ある教育を実践しております。愛媛県の教育界にあって最も充実した地区であると自負しているところです。医療面も、総合病院であります松山赤十字病院を中心として、多くの病院、診療所があり、高齢化の進んでいる東雲地区の住民だけでなく、松山市周辺地域住民の生命の安全安心の一翼を担っているものと確信しております。なお松山赤十字病院につきましては、将来の医療にも対応できる病院に生まれ変わる計画が進んでいると聞いております。ますます生命の安全安心への期待が高まっているところです。今日集まっているうちの多くの方が高齢者に当たるかと思いますが、我々高齢者の子どものころには、城山とか御幸寺山とかお囲い池、かわらけ堀などが学校から帰ってからの遊び場でした。遊びにおいても創意工夫の毎日でした。お囲い池とかわらけ堀は既になく、今どきの子どもたちはどのようにして遊んでいるんだろうかという疑問をもちます。城山とか御幸寺山で遊んでいるんでしょうか、それともゲーム機で遊んでもらっているんだろうかという心配があります。先日東雲小学校の子どもと地区の高齢者が集まって、こまとかけん玉とか紙飛行機とかお手玉とかそういう懐かしい遊び道具を介しての交流会が開かれました。楽しいひとときでした。それは手足はもちろん全身使っての遊びで、工夫を重ねての遊びでありました。この交流会を振り返ってみますと、高齢者も捨てたもんじゃないという思いを持ちました。歳をとれば頑固になる、あるいは小うるさくなるといわれますが、彼らは昔取った技能、能力を持っております、そういう人たちの集団であります。「高齢者よ、積極的に自らの資産、持ってる能力を社会に還元せよ。将来の日本を背負って立つ子どもたちに自らの経験技能を伝授せよ。日々工夫あるいは創造のときを過ごした経験を伝えよ」という思いを私は持っております。以上のように老いも若きもこのまちで大いに生活を楽しんでいるところであります。この楽しさあふれるまちではありますが、大切なのは大いなる可能性を秘めた子どもたちであり、その子どもたちを磨きうる高齢者です。我が東雲地区の宝である子どもたちと高齢者は、美しく明るい日本の将来をつかむために大いに切磋琢磨していきたいと私は考えております。以上で簡単な説明を終わります。

【市長】　ありがとうございます。もう網羅していただきましたので、皆さん改めてこの東雲のよさについて思っていただけたんじゃないかと思います。私も平和通りの友達とよく松山城で遊んでいた人間であります、父親が県職員だったので官舎に住んでおりまして、清水小学校の入学、卒業です。実家は北条で、北条の家から最寄りの公共交通機関、当時国鉄の粟井駅までは自転車で一生懸命１０分はこいでいかないと公共交通機関利用できませんので、非常に東雲の方はうらやましいと思っていたところです。たくさんの宝がある東雲ですので、皆さんと一緒に磨いていきたいと思います。それでは皆さん問題点とかお困りの点とかあると思いますので、早速移っていきたいと思います。お願いします。

【司会】　ご意見をいただく前に、皆さんの関心の高い東雲小学校の小中連携について説明させていただきます。

【学習施設課長】　学習施設課長の赤松です。それでは東雲小学校の小中連携校整備について説明させていただきます。今回の事業ですが、老朽化した東雲小校舎を耐震化するに当たり小中連携をより機能的にするために、小学校新校舎を東中校舎に併設して建てかえるほか、教員研修や教育研究を目的とした教育センターを新たに整備するものでございます。それでは今回の計画についてスライドで説明します。左側が現在、右側が整備後の配置図です。左側の赤線囲み部分が東中学校で青線囲みの部分が東雲小学校です。北校舎と南校舎が耐震化が必要な小学校校舎です。新校舎建設に当たり北校舎の西半分と小学校プール、中学校プールと剣道場を取り壊した後、東中学校の校舎と併設する形で新校舎を建設し、完成後に小学校の校舎、体育館などすべてを取り壊す予定となっております。教育センターは敷地の南西に小学校校舎と一体の建物として建設する予定です。また学校整備に伴い、小学校南側に片側３．５メートルの歩道と幅員５．５メートルの道路を新たに整備し、歩道に面した部分に正門を設ける計画としております。では今回の整備により学校がどのようになるかを基本設計でのイメージパースをもとに説明します。今回の整備の特徴の１つですが、小中学校のプールを新校舎の屋上に、小学校の体育館は教育センターの４階部分としており、屋上のプールは中学生用プール、小学生用プール、小学生低学年用プールの深さの違う３つのプールを整備する計画としております。これが南側の正門から見たイメージで、正面が小学校の新校舎、左手が教育センター、右手が遊具を設置するスペースとなっております。次に学校の東側から見たイメージがこのようになります。左手が小学校の新校舎、右手が東中校舎で、２階、３階部分を連絡通路でつなぐ計画としております。これが屋上プールのイメージとなります。以上が基本計画での整備概要となりますが、最終的には実施設計で若干変わることもあるのでご了承願います。次に敷地の利用計画についてですが、プールや体育館を一体施設とするなど空間の有効活用を図ることや、東雲小の児童数が昭和３０年代の約２千人から現在は３００人弱と大きく減少していること、また東雲小学校の敷地は国有地で年間１，４００万円の使用料を国に払っていることなどから、南側の部分は国に返すこととし、現在協議を進めております。これにより小中学校の敷地面積が３４，３６５平方メートルから２５，２３３平方メートルに減少しますが、空間を有効活用することで、運動場は整備前と同じ面積を確保しております。なお国に返す南側部分については新聞等で御存じかと思いますが、日赤が国に対して病院の建てかえ用地として取得の申し入れを行っているところです。次にスケジュールについて説明します。この事業は平成２７年度までの４カ年の事業で、現在設計を行っている段階です。工事着手は平成２６年度を予定しており、翌年２７年度に新校舎を完成させ、２学期からの供用開始を目標としております。新校舎完成後に既存校舎の解体工事や外構工事となり、最終完成は平成２７年度末を予定しております。工事の着手に伴い騒音や工事車両等で東雲地区の皆様にはご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、細心の注意を払いながら進めてまいりますのでご理解ご協力をよろしくお願いいたします。以上で説明を終わります。

【司会】　東雲小学校の小中連携について説明をさせていただきました。この件につきましてご意見、ご質問等ございますか。

【女性】　今、新しい東雲小学校の建てかえの計画を聞かせていただきまして、小学生の保護者といたしましてとても楽しみになってまいりました。たくさんの保護者の方たちが、学校のことは報道でしか知れないのでどうなっているのだろうかという声をよく聞きまして、また地区内に住む未就学児を持ってらっしゃる保護者の方も、これから入学を考えているんだけれどもどうなっているんだろうと不安の声が上がっていました。今後ですけれど、こういう説明会を地域の方にはしてくださっているとお聞きしているんですけれど、学校の保護者対象に開いていただけるんでしょうか。よろしくお願いします。

【市長】　これは基本的にできます。

【学習施設課長】　はい、東雲小学校のＰＴＡ総会で４月２１日に説明をしておりまして、１１月８日には東雲地区の広報委員会での説明を行っております。今後も情報発信に努めてまいりますが、ご要望がございましたら、学校や公民館等を通じまして教育委員会へ申し出ていただければ、それぞれの団体等における会合にあわせて説明する機会を持ちたいと思っております。よろしくお願いします。

【男性】　今の学校の説明に絡むんですけれども、市長の公約、ホームページで見ました。誇れる子育てで笑顔にっていうことで、学校の芝生化を提唱されておるのを見ました。ホームページの情報が古かったと思いまして、２３年度の実績と２４年度も終わりごろなんで、もし、そういうことがありましたら教えてほしいんですけれども。ちょっと気になるのは、芝生をやるというときは皆さん、地域のボランティア集まってやると思うんですけれど、夏休み、冬休みとあって、維持管理が気になっておりまして、地域の方でどういった形で維持管理していくのか、ＰＴＡという言葉もありましたけれど、併せて夏場の芝生は水が要るんで、松山で水というといろいろ問題、分水問題もあって、そこらでうまく過去にやってこられた実績で対策があれば教えていただきたいと思います。

【市長】　私からお答えをさせていただきます。まずホームページ、情報が古いというお話がありましたので、さっそく改めさせていただきます。そして芝生化についてですけれども、これは、押しつけるものではございませんで、手挙げ方式でさせていただいております。２３年度、最初にやったのが３校。そして２４年度が５カ所でさせていただきました。一番よくわかるのは松山市立坂本幼稚園のホームページを見ていただきますと、日々の様子がつづられておりますので、一番わかりやすいかと思います。５つのメリットがございまして、まず、はだしでのびのびと走れる環境ができますので運動能力の向上、そしてコミュニケーション能力の向上。今の子どもたちは自分の気持ちを表すのが非常に下手になってます、それは子どもたち同士で遊ぶ機会がものすごく減っているので。子どもたち同士で遊ぶときにコミュニケーション能力は磨かれてきました。例えば僕はこの遊びがしたいって言ったら、気持ちを表しているんですよね。当然、遊びと遊びがぶつかることがありますから、工夫をする、調和をする、我慢をするっていうのでコミュニケーション能力が鍛えられてまいりました。でも今、子どもたちだけで遊ぶ機会って少なくなってきていますので、そういう子どもたちがのびのびと遊ぶ環境をつくるというので、２つ目の利点としてコミュニケーション能力の向上。熱中症対策、砂ぼこり対策、そして一番大事なのが地域の方々と一緒に芝生は植えていただきます。梅雨時期、６月ごろに植えて、大体２カ月ぐらいで生えそろえます。鳥取方式、ティフトンという繁殖力の強い芝生を使います。５０センチ間隔くらいで、園児さん、お子さんと保護者の方、地域の方、教職員の方一緒に植えます。なぜかというと、芝生を植えると生き物ですから芝生が元気に育っとるだろうかっていうのが気になります。そうなると芝生が植わっている園への関心になります。そうなるとその芝生がある園で育っている子どもたちの関心にもつながっていきます。今本当に地区で子どもを育てる環境にありませんけれども、そういう地域で子どもたちを育てるのがこの鳥取方式の大きな意味合いです。でも松山市は水の少ないところですので、例えば雨水貯留施設とか雨水タンクがあるところで、プールの水を有効利用できるところ、水の再利用ができるところ、水のケアができるところ、そして地域の応援体制が整ったところから手挙げ方式でしていただいておりますので、押しつけるものではございません。そのような趣旨でやっておりますので、趣旨にご賛同いただけて芝生化が広がっていければと思います。最後に坂本幼稚園では非常に運動能力向上している、コミュニケーション能力も向上しているようで、報告ではすり傷一切なし、ばんそうこうをつけるようなこともなくなったと聞いております。

【男性】　２番目の高齢者への支援にも関連してくるんですけれども、小学校の敷地を国に約１０，０００平米返すようになっているところを、松山赤十字病院が買収するというお話でございました。松山赤十字病院は基幹病院でもあるし、市民にとっても非常に重要な病院であると思います。松山赤十字病院も敷地がなければ他へ移転するという計画も新聞等で見ておりましたので、ここに残っていただいたことは非常にありがたいと思うんですけど、その計画等がございましたら教えていただきたいと思うんですが。

【市長】　これについては日赤さんという民間がやられることなので、今我々のほうから発表するということはございません。大濱部長から何かありますか。

【社会福祉担当部長】　保健福祉の分野から、お答えをできるところはお答えをしたいと思いますが、現在、教育から説明があったように、教育から国に返す土地を、日赤が売ってほしいと国に申し上げているといったことで、そういったことが可能になれば、現場所での建てかえを考えておるということではないかと側聞しております。規模につきましても全然わかっていない状況で、土地が確保できるかどうかが今の場所にやるのかということだろうと今は思っております。以上でございます。

【男性】　１２月２日に、東雲地区の自主防災会の訓練を行いまして、その際には東消防署はじめ、市役所からハザードマップが新しくできて、その説明に来ていただきました。誠にありがとうございます。今年の８月１９日に集中豪雨がありまして、道後湯之町から、緑町、東雲校区がいくらか水に浸かりました。これが実証では３５ミリの雨となっておりまして、その後、９月３日にも集中豪雨ありました。そのときには被害がなかったんですけれど、私が住んでいる此花町、青少年センターの裏ですけれども、やはりひざ下くらいまで、昔のお囲い池ですからそのほうに水が流れていくという格好になりまして、これも浸かりました。１０分当たりの降水量が気象台から出されておるので調べたところ、大体５０ミリ前後の雨じゃないかな。８月１９日は時間当たり直しますと１００ミリ超えるような雨ということです。松山市の下水道の容量いうのは大体５０ミリぐらいかなと推測できるんですけれども、下水道のほうとしてはどういう対応をされておるか、今後どういうふうにされようとしているかお聞きしたいと思います。

【市長】　これ私から。８月１９日は、ちょうど俳句甲子園の日で、コミュニティセンターの中におりました。俳句甲子園が終わって、夕方、道後の商店街にまいりました。どのような状況であったのかさっそく聞き取りをさせていただいて、お見舞いに行かせていただきました。さっそく下水道の担当を呼びまして、改善するよう指示を出しております。８月１９日の雨が松山地方気象台観測史上最大です。１０分雨量が２４ミリ、１時間換算で１４４ミリの雨が一時に降ったのでこのようなことになりました。ちゃんと地図も見て、どこがどうなっているかも把握して指示を出しておりますので、できるだけ早く改善していきたいと思っております。これまで、最大径３メートル、直径３メートルの下水道管を６．５キロ整備しまして、いつだったですかね、和泉のほうが１０カ所ぐらい浸かった。

【下水道政策課長】　松山市では、平成１３年にかなり被害がありました。このときの雨が大体１時間雨量で４１ミリ、日雨量で２６３ミリという、当時はこれがかなりひどい被害になりまして、そういう被害を教訓に、少なくとも床上浸水、これは家財まで失うような被害ですから、少なくとも床上浸水を早く解消しようということで今取り組んでおります。そしてこちらの此花地区につきましても、このあたり昔は非常に雨に弱いところで、昭和５４年ごろに一度大きな災害がございました。そういうことを教訓に、先ほど市長が申し上げました直径３メートルの増補管、そういう幹線をするとか、その他雨水の調整池をやるとか、ハード整備ではもうなかなか難しくなったからゆっくり流す、貯めて流すということに一部考慮もしながら、整備をしております。そしてご指摘いただいた道後地区はじめ、８月１９日の浸水に対しても、今まさに、その原因と実際のメカニズムも研究をして、できることから対応をしておりますので、もうしばらくお時間をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【男性】　それで、私が１つ思うことがあるんですけれども、１０分間に１７ミリとかいうオーダーで降ると５０ミリですか。降るのは集中豪雨ですから５分か１０分、もしくは２０分の間じゃないかなと推測します。その間全部下水が飲むとパンクするはずです。それを一回どっかにプールするとか、プールいっても東京都がやっとるような地下にプールをつくるんじゃなくて、私が１つ思うのは、道路上にプールをしたらどうかな、それが１０分か２０分たつと引いてしまうというような格好で、地下にプールをつくるんじゃなくて、道路の表面に凹凸をつけるというような格好になるかと思うんですけど、それか開所を小さくして飲みにくくするとか、弊害もいろいろと出ると思うんです。

【下水道政策課長】　方法については我々もいろいろ考えておりますけれども、今言われたことも参考にしたいと思いますので、また後日お伺いしてアイデアいただきたいと思います。

【女性】　東雲公園ですけれど、遊具があるところと道路を挟んだ反対側がまだ利用が十分できていないところがございまして、先ほどの市長のおっしゃった芝生化も同じですけれども、緑化をしていくことと土に触れること、街中の子どもたちはそういう機会が少ないので、あの公園をコミュニティファームというような形で、地域の人たちや子どもたちと一緒につくっていけたらいいなと。つくっていきたいものにはどういうようなものがあるかというと、東雲小学校の校長先生からも、例えばお芋を植えていもたきをしてはどうかというご提案もありました。私のほうは公園を使って防災のときにいもたきの炊き出しの訓練を一緒にさせていただければ、地域の方とも仲良くなれるなとか、お年寄りの方にもお声をかけて一緒に畑の管理をしていけるのではないかなと。私たちもお手伝いをさせていただきたいと思っているんですが、そのようなアイデアに対して、市としてどのようにご協力いただけそうかご回答いただけたらと思います。

【都市政策課長】　東雲公園の利用の仕方ですけど、今回おっしゃられましたコミュニティファーム、体験的な農園としての利用につきましては、都市公園法の中に公園内に設置できる施設としてございます。子どもたちの体験学習の場として小学校を中心に活用できる可能性はございますので、今後また具体的な活用方法について一緒になって検討させていただきたいと思います。

【市長】　なんかできそうな雰囲気ですね。

【男性】　私は環境問題、特にごみ問題について、東雲校区は専門学校、大学があり、学生マンション、賃貸マンションが建っております。そこで、話として近隣住民とごみの出し方でトラブルが起きていると聞いております。私は、この間県の地方局行きまして、都道府県でやる一部の事業税について聞きました。事業税となると１棟のマンションで１０室以上、駐車場が１０台以上あったら事業税でとれるそうです。賃貸マンションを営業されているオーナーは事業として、商売としてやっておられると思いますので、賃借人からごみ代として共益費の中に入れて、それを事業系のごみとして専門の回収業者にされてはどうでしょうか。以上です。

【環境政策課長】　環境政策課長の大野と申します。本当に日ごろごみの分別、収集に皆様のご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。今おっしゃられたような学生のマンションとか、なかなか分別が難しいという話もいろんな地域から伺っております。松山市としましても、例えばマンションのオーナー、大学関係については大学へ行きまして、新入学のときとか、今度学校を去るときとか、学生に対してごみの分別を、ちゃんとしてくださいというお願いをしているところですけれども、今おっしゃられたようにマンションにつきましては、一般廃棄物ということで、松山市がとらなくてはなりません。ですから私どももオーナーとかそういうところに行ってＰＲを一生懸命する、チラシをつくってごみの出し方をきちっとしてください、分別をしっかりとお願いしていくということですので、もしそういうマンションがありましたら、清掃課へご一報いただけたら、オーナさんへも十分ご説明させていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

【市長】　今日は３７地区目のタウンミーティングですけれども、大学生さんとかひとり暮らしの若者が多い地区では、よく出る事柄です。ごみのお世話をされている方々のお困りな気持ちはよくよくわかりますので、継続して清掃課に指示をしております。今日も、松山大学で自治体首長リレーという講義がありまして、私の番で１時間半講義をしてまいりました。松山大学の学生さん、たぶん２、３００人いたと思いますけども、その中で「皆さん、周辺の方ごみお困りだからきちっとマナーを守ってやってください」っていうことも話してまいりました。もう少し皆さんにごみ出しのルールを守っていただける取り組みを強めてまいりましたし、これからも強めてまいりますので、またご協力いただけたらと思います。よろしくお願いします。

【男性】　さっきのごみ出しの話ですが、１つは要するにルールを守ってないのを押さえたいわけですよ。押さえるには一番いいのは録画しとくのがいいですね。カメラと録画機のセットで大体５、６万。松山市が５万出すとして２０セットとしたら１００万です。１００万で購入して、半年間貸し出すという形、要するに千を超える町内会で皆さん困っている。２０セットあれば半年ごとだったら４０カ所セットできます。それで現行犯といいますか、押さえつける。そういうことでもやらないことには、なかなか事業者に頼む、要請するのは難しいです。それと今の松山大学のっていう話ありましたが、ごみ当番をやらんことには卒業できんという形で、単位認定、必須単位という形で松山大学とか愛媛大学とそういう形でできんかと。彼らは聞く耳を持ってない、とどめる耳を持ってないという思いがありますので、そういう対応も必要じゃないかと思います。

【市長】　はい、アイデアをいただきましたので、また検討させていただいたらと思います。

【男性】　地域の高齢者福祉サービスの拠点であります地域包括支援センターについてお聞きしたいと思います。当地区の住民は八坂校区を越えて、さらに石手川を越えて素鵞校区のセンターを利用していますが、当地区と道路１つ隔てた持田一丁目に他の校区のセンターがあります。そこでは介護認定申請の受付のみで、後の対応はしてもらえません。すでに小学校の場合は校区外から入学ができる弾力的な運用がされていますが、当地区の住民については、一定の手続きをとれば、同様の仕組みで、他の校区の支援センターを利用できないか検討していただいたらと思います。以上です。

【社会福祉担当部長】　失礼します。まず、地域包括支援センターの概要について、地域包括支援センターは、現在市内の１０のエリアで設置しておりますが、お住まいの場所から非常に遠いことで不便と感じておられる方もいらっしゃるということもお聞きしております。ただ、地域包括支援センター自体は、利用者のお越しをお待ちするのではなくて、お電話をいただければ直接訪問させていただいて、相談をさせていただくということ、ご一報いただければ包括支援センターのほうから出向いていくことを基本としております。そうした中で、他の校区の支援センターを利用することについては何ら問題ないんですが、住み慣れた地域で安心して生活していただくことを基本として、その地域自体の介護、関連した予防サービス、医療、この医療には医師や病院の場所なんかを含めて、その地域で独自の支援サービスも、包括支援センターは日々活動の中で調査もし、準備も進めておるのが現状です。そういった意味で、一般的なサポートについてはご利用いただいて結構ですが、その地域で活動されるサポート、その圏域の中の介護も含めた社会資源も掘り起こしながら、その圏域の中の方々の支援をどうすれば一番いいのかという検討を地域包括支援センターは行っており、個々の相談になったらその地域で一番詳しい包括支援センターをご利用いただくのがベストという思いで進めておりますので、そういったご理解でよろしくお願いをできたらと思っております。

【市長】　今聞いて、地域包括支援センターが直接高齢者の方のお宅に出向くことを基本方針にしているっていうのが、まだあんまり知られてないんでしょうね。その広報のやり方をもうちょっと検討しないといけないですね。

【男性】　近年、県知事公舎跡地をはじめ県有地が民間に売却され、当地域に高層分譲マンションの建設が相次ぐ中、現在新たに市内最高層となる２２階建て、高さ６５メートルの分譲マンションの建築計画が進められ、地元町内会で反対運動が起こっています。今後もこうした状況が続けば、市の宝であり、またシンボルでもあります松山城が見えなくなること、ますます景観阻害が懸念されます。現在の市のルールでは、建物の高さ制限はないと聞いていますが、松山城のすばらしい景観を後世に引き継ぐためにも、例えば、お城から一定の距離の範囲内は、今後高さを制限するなどの規制等を十分審議され、松山市景観条例で規定することはできませんか。検討していただきたいと思います。

【都市政策課長】　今おっしゃられました高さ制限ですけれども、高さ制限した場合にやはり、いい面、悪い面がございます。例えばいい面としましては、やはり今おっしゃられましたように、まちの景観、生活環境の保全ということがございます。逆にデメリットの面につきましては、中心部におきましては都市計画で誘導します土地利用、用途地域といいますけど、用途地域で主に商業地域でいいますとやはり容積、建ぺい率でかなりの土地利用、高いものも建てて、中心市街地への民間の投資意欲が高まると思います。逆に高さ制限をしますと、経済活動に支障をきたす可能性があると考えております。しかしながら、松山市におきましても榎町通りにおきましては５０メートルに高さをしてくださいという形をとっております。この高さ制限につきましては、基本的にはやはり皆様の意識、景観に対するいろいろな制限がかかりますことから、意識の高揚は非常に重要であると思いますので、今後とも、高さ制限することによってのいい面とか悪い面とかをわかっていただきながら、皆さんのご協力がいただければ、松山市としても、今後お城山が見えるような景観に配慮した形で検討していきたいと考えています。

【男性】　今の関連ですけど、持田町の県の総合福祉会館の北側にあります松山市公営住宅の跡地利用について質問及び要望をしたいと思います。現在、解体が終わりまして更地に近くなっているんですけど、この利用についてはまだよくわかっておらないわけですけど、どういう計画でいるのかお伺いしたい。次に要望ですけど、ここは住宅地の真っただ中で、非常に閑静な環境にございます。ここに、さっき出ましたような高層住宅が建つということになりますとはなはだ遺憾じゃないか。安易に民間業者に売却してその後どうなるかわからないということは、ぜひ避けていただければと思います。住宅地にふさわしい利用計画が出されてほしいと思います。それから当該地に至るアクセスの問題ですが、南町のほうから入って当該地に至る道路ですけど、非常に狭あいで車の離合が難しい、あるいは車と歩行者の離合も非常に危険な状況にあります。当該道路は学校の生徒、児童あるいは幼稚園児の通学路としても利用されておりますので、ここに非常に人が集まる、または車が非常に多くなるという利用計画がなされますと、大変生活上危険ですし、せっかくの教育環境もよくないんじゃないかと思うわけで、ぜひそういうことも考慮して利用計画も立てていただければと思います。以上です。

【都市政策課長】　今の持田住宅につきましては、来年の２月末に取り壊しを完了する予定です。その後の跡地利用について、今現在では市営住宅を建設する予定はございません。また、跡地利用につきましては、松山市に跡地利用の検討委員会がございます、そういう中で今後どういう有効な活用計画ができるかを検討してまいりたいと思います。あわせて今、道路整備もおっしゃられたんですけど、道路整備と一体になると思いますので、そういうことも含めて今後検討させていただきたいと思います。

【市長】　私から、すみません、職員は手元に細かい数字などがありますので座ったままになりますが、私は皆さんの顔を見ながらお話をしたいので、そのような違いがありますがご了承ください。高層建築物のことについては、無秩序に知らんうちに建てられるわけではございません。硬い言い方ですけど、中高層建築物の建築に伴って発生する生活環境に関する紛争の予防及び調整を目的として、松山市中高層建築物の建築に関する指導要綱をつくってまして、建築側に建築物の事前公開や近隣の住民の方への事前説明をお願いしております。建築紛争に発展しそうな場合は、松山市は両者の申し出によって調整を行うことも規定されておりますので、知らん間に２２階建てが建ってしまったとかいうことにはなりませんので、そのあたりはご安心いただけたらと思います。

【男性】　失礼します。この分で松山市は中核市で５０万人以上の人口がありますんで、中核市になれば先ほど言ってた教育センターができますよね。そしたら児童相談所もつくれるんではないでしょうか。県の児童相談所は忙しいです。松山市独自に児童相談所はどうでしょうか、その跡地に。以上です。

【社会福祉担当部長】　跡地利用については今突然お話を振られたので、ちょっと今考えてなかったんですが、児童相談所については今後そういったことも踏まえて検討をしてまいりたいと考えておりますが、直ちに何かができるということではないのでちょっとお時間をいただいたらと思います。ありがとうございます。

【市長】　すみません、私から。今５０万都市の話がありましたので、お知らせしたいことがありまして言わせていただきます。ロープウェイ街、坂の上の雲のまちということで新たになりましたけれども、ロープウェイ街を訪ねさせていただいて、「ロープウェイ街がきれいになったんはええんじゃけど、看板代金が相当高なったんじゃけどあれは何とかならんのかな」というのを聞いておりまして、実際に高くなっていたんです、内容を調べると。といいますのが、平成１７年の１月に松山、北条、中島で合併して５０万を超えた瞬間に、これもひどいなと思うんですけど、政令指定都市を含む大都市と同額になっちゃうんですよ、５０万を超えた瞬間に。これはちょっとおかしいなということで、何とかしましょうよっていうことで、現場のほうからちょっと難しいですみたいなことがあったんですが、いや何とかしましょうよっていうことで、お待たせをしましたなんですけれど、この間の議会で認めていただきまして、値段でいいますと平成１７年の合併時は１平方メートル当たりの看板の年間の占用料が４，４００円だったんですけれど、合併して５０万都市になって１４，０００円になってました。高いです。今回新たに松山市で条例をつくりまして、４月１日から適用されますけれど、３，５００円になりましたので、これで看板類や日よけ、足場などの占用料が現在より大幅に引き下げになりましたので、この点はご安心いただいたらと思います。また、市長へのわがまちメールという制度もございます。私メール使えんのよっていう方、はがきでも封書でも結構ですので、「市長、これちょっとおかしいんじゃないの」っていうことがありましたら言ってください。ものすごく広範囲に及びますので、気づかないこともありますので、それは教えていただいたら、改善できるものから改善していきたいと思いますので、また言っていただいたらと思います。予算の話をちょっとさせていただきます。今も「こういうの建てたらどうだろうか」って言っていただくんですけれども、タウンミーティングの各所で皆さんから、「市長、こういうふうにしたらどうやろうか」「こんなもんつくってくれたらどうやろうか」っていう要望いただくんですけれど、なかなか残念ながらその要望にすぐにお答えできる状況にないということをご説明させていただきます。今、国は９８３兆円の借金を抱えております。日本の人口はわかりやすくいいますと１億人、１人当たりどれだけの借金を抱えているのかっていうのがわかっていただけますけど、国から地方に地方交付税交付金とか国庫支出金という形でお金が配分されてきます。でも大もとの国がそれだけの借金を抱えているならば、地方に回ってくるお金が膨らむとは考えにくいですよね。そういう中で、松山市の１年に出ていくお金を歳出といいますけれども、この中で一番大きなウエイトを占めているのが民生費です。あと土木費とか教育費とかいろいろあるんですけれど、民生費、福祉にかかるお金が４０パーセントを占めています。これが松山市だけで１年だけで５０億円増えたんです。これ松山市だけが特殊な状況ではございません、ほかの地方都市も大体このような状態です。皆さんがよく聞かれる生活保護費もこの中に含まれます。これセーフティネットなので真に必要とされている方には本当に大事なお金です。もちろん、職員も一緒にハローワークに行って就労支援をしたり、適正化に様々努めておりますけれども、なにせ経済状態がよくないので、生活保護を申請される方が増えてます。生活保護費は１年だけで松山市だけで１５億円、決算ベースで増えたという現状がございます。ということはもう国からの配分は大きく膨らむことは考えにくい。そして少子高齢化の時代ですから、これからなかなかお財布が膨らんでいくというのは考えにくい。そういった中で民生費が５０億増えたならば、５０億どこかで絞らないと財政のバランスは悪くなります。生活保護費が１５億円増えたならば、どこかで１５億円絞らないと財政のバランスは悪くなります。こうやってタウンミーティングしまして皆さんから要望いただきますけども、いわゆる市長の人気取りからいったら、「わかりました、それやりましょう」って言ったほうが、私も人間ですし楽ですよ、そっちのほうが。でもそれをやってしまうと将来の子どもや孫にツケを残すことにほかならない。じゃあなぜタウンミーティングやってるのかっていうと、やっぱり皆さんのお話をしっかりと聞かないと、やることが間違ってはいけません。直ちにできないこといっぱいあります。この時代ですから、皆さんに我慢や負担をお願いすることもありますけれども、やはり皆さんのお話を聞いておかないと間違ってしまう、それではいけませんので、皆さんのお声を聞いて、松山市として何をしなければならないのか優先順位をつけさせていただく。そのためにやっぱり皆さんの声を聞かせていただくのは大事ということで、このようにタウンミーティングをさせていただいております。もちろん、財政厳しいから、どこの自治体もそうですけれども、財政が厳しいからといって何にもしないわけではございません。今やらないといけないことはきちっと今やっていく方針ですので、ご理解いただけたらと思います。このような状況でございます。

【男性】　ロープウェイ街のことを話させていただきます。坂の上の雲のまちづくりということで、非常にハードもよくなりました。今後僕たちがソフトの部分を頑張っていこうと思っているんですけど、例えば道後の本館なんかは、道路を通行止めにして車を通らなくして、商店街と本館との行き来がよくなってあそこは非常にいいまちになったんですよね。ロープウェイ街は何を考えているかっていうと、ロープウェイの駅舎と松山城、周りの観光三位一体のまちづくりをして、頑張っていきたいと考えております。それで、基本的には駅舎の前を、祭日あたりに通行止めにして、市をしてにぎわいをつくっていくようなこと、高知でいう朝市、もしくはひろめ市場みたいなものをしたいと思っているんですけれども、通行止めにするときに規制が多くて、各角に警備員立てとか、東京とかでいうとコーンバーで簡単に通行止めにしてたりするんですよね。その辺簡単に、駅舎の前を通行止めにすることに関しては、横に逃げれますし、後ろにバス置場もあるので非常にいい。まさに本館に似たまちづくりになると思うんですよ。そこで朝市を含む松山市の２大観光地としての松山のロープウェイ街、駅舎の前の通行止め、にぎわいに関してどう思われているかということをお聞きします。

【市民部長】　大変我々にとってありがたいご提案でもありますし、今後考えなければならないんですけど、そういう市をするのは、可能ではあります。それから通行止めなんかの規制を、例えば警察とかに相談がいると思うんですけど、その場合に非常に苦労されとるという現状があるんですけれど、今日来る前に地域経済課に相談しますと、そういう提案を、具体的にどうしたいかという主催する団体の方の今後の方針とか聞かせていただいて、行政が一緒に参加できないか、そのあたりもう一回検討させていただきたいと。それがありますと、松山市が参加しますといろんな利便性も向上できますし、警察規制、それから道路使うときは市道の場合、松山市の道路管理課というところで許可したりしますので、一度ご提案いただいて、具体的に行政と地域の方がどういう連携ができるのか相談させていただきたいということがありますので、またよろしくお願いいたします。

【市長】　行政が主体でやるよりも、地区の方がまとまっていただいて、こういうのしたいんじゃって言っていただいたほうが結構通りやすいです。行政が主体でやると皆さんの意見と違ってて継続せんかったっていうこともありますので、地域の方々がやりたい、まとまっとるっていうことで提案していただいたほうが、ずれがないので動きやすいところがありますので、また相談させていただいたらと思います。まさにロープウェイ街は坂の上の雲のまちの代表的なところだと思いますが、２３年の末でＮＨＫのスペシャルドラマ坂の上の雲が終わりましたので、その後のまちづくり、「たからみがき」のまちづくりを言ってます。これは、松山城とか道後温泉とか瀬戸内の風景とか瀬戸内の幸とか公共交通とか、公共交通は１，８００自治体がありますけれども、路面電車残ってるの全国１７都市しかないんですよ。この公共交通が残っていたのは松山大きいですね。あと現実の数字として、１日１人当たりのごみの排出量は５年連続で日本で最少です、５０万人以上都市で。あと、防災士の数は自治体別で一番とか、女性消防団の数は日本で一番とか、野球文化がある、言葉の文化があるとか、こういう宝を皆さんと一緒に磨いていこうというのが「たからみがき」のまちづくりです。これは坂の上の雲のまちづくりの継承、発展ですので、継続していってます。例えばスポーツのイベントなんかでは、坂の上の雲のこと言いやすいんですね、「このしんどい世の中やけど、坂の上の雲めざして頑張っていこうね」っていうのはスポーツのイベントなんかでは言っております。また観光の誘致を積極的に進めているんですけど、「この松山に来て坂の上の雲の理念を感じてくださいよ」「企業さんが研修に来るには、しんどいけども前向きに頑張っていこうっていう理念を感じてもらうには坂の上の雲のまち松山最高ですから、企業の研修旅行も来てくださいね」みたいなことで坂の上の雲のことも盛んに言っておりますので、またご理解いただけたらと思います。よろしくお願いします。

【男性】　今言うたロープウェイ街は非常に確かによくなって、立派になったので、私らも感心して歩くのも楽しみになりましたけど、その反面、東雲神社の通りから北側、西一万の商店街、これ松山城を中心にした観光地でありながら、その至近距離である歩道が狭くて、そしてまたあそこは、日赤をはじめ、小中学校そして愛大、護国神社に至る道路、非常に朝は通学児童も多いと思います。もっと歩道を広くできないだろうか、あるいは、ちょっと勝手な言い方かもわかりませんが、平和通りに至る距離約２００メートル余りだろうと思うんですが、例えば、速度制限１０キロ、そして、大名通りとか大奥通りとか、そういうぐらいの発想でできないだろうか、そのような考えを持っております。

【都市政策課長】　東雲神社から平和通りの区間、今おっしゃられたこの道路につきましては、平成１０年に歩道整備を行っております。幅員が１２メートルですので、歩道幅員としては狭いだろうとは感じております。ただその中でまた道路拡幅いうことですけど、拡幅するためにはやっぱり皆様のご協力が絶対条件でございます。道路広げるためには用地とか、建物とか地権者の皆さんのご協力が何よりも大事ですので、同意がいただけるようになりましたら、市のほうにご相談いただければ、今後考えていきたいと思います。

【市長】　一般的なことですけど、こちらのほうから道を広げたいので下がってください、売ってくださいという方向性になるんですか。地元の方々が地権者の同意は得たからお願いしますという形になるのか、どうなんでしょう。

【都市政策課長】　都市に必要な道路は都市計画決定をしまして、将来的に道路を広げますよという制限をかけております。ただいまの道路も都市計画道路で、１２メートルという計画をして、今、完了済という道路でございます。これからなおまた広げる場合には、新たに都市計画決定する方法もございますが、事業化が担保されていないと新たに都市計画決定できませんので、そのためにはやはり皆さんのご協力が必要だということです。

【市長】　これは愛媛大学もある、中学校もある、小学校もある。幸い小中学校と大学生の朝の通学の時間がずれているので、ですけど夕方なんかは重なるときもありますので、通行量は多いだろう、日赤の例えば月曜日の朝９時ごろとか車も多いだろうなとよくよく認識しておりますので、ただほったらかしにするのではなくて、何らかのいい方策、うっていきたいと思います。

【男性】　私は去年、関西のほうに住んでおりまして、定年退職を機に４０年ぶりに松山に帰ってまいりました。実家は山越のほうにあるんですけども、今の流行ですが、都心化、便利なところに住みたいということで、この東雲地区でマンションを買いまして住まわせていただくことになり、ちょうど１年経ったところです。親戚なんかも、「おお、東雲のマンション買ったんか。」いうて、うらやまれるような状況でして、そういう意味では今、東雲地区に住むというのは非常に便利がよくて、皆さんからうらやまれるようなところだと思って私も住んでいます。それからこの１年間に帰ってやることもありませんので、お城下大学だとかずっと参加させていただいて状況を聞かしていただきますと、だんだん今、不安になってきているところです。というのは、地方都市、車社会化しまして、どんどんと中心部から郊外へ公共施設だとか商店街、お店さん、住民なんかも移っていくんです。松山市だけはまだここが中心部が栄えてるいうことで、今治市の常盤商店街とか新町、本町なんかはもうまさにアーケードの中を車で走れるんですね。ここの商店街、自転車で走っても怒られるんですけども、あっちのほう、車が走れるんです。新居浜市の登道商店街だとか昭和通り商店街も車でアーケード走っとるんですね。こうなるというのが日本全国一般的なところで、そういう形になっていくのに松山市はうまくやっていけたらと思っとるんですが、お城下大学なんかに参加しますと非常に不安になりまして、どうも商店街空き店舗率１０パーセントを超えとるんだそうです。あそこもシャッター商店街になってしまう寸前なんです。ここの路面電車なんかでも、もう年々乗客が減ってまして、郊外電車では森松線が廃止になりましたけども、次は本町線が廃止になる、三津浜線が廃止になるんじゃないかいうようなうわさが出ている状況です。さらにＪＲなんか開業以来２０数年、乗客が半減してまして、とうとう数年前から赤字で補助金をもらって１０年後に返し始めるときまでに本当にどうするのかという状況になっとるんですね。とにかく今、市で進められとる歩いて暮らせるまちづくりに非常に期待をしてまして、この東雲地区を荒廃したまちにしないようにぜひよろしくお願いしたいという要望をさせていただきたいと思います。

【市長】　これについては私から述べさせていただきます。少子高齢化といいますけれども、高齢の方が増えてくると当然、視力も落ちてくる、運動能力も落ちてくるということで、自動車の免許は返上するということも考えなければなりません。また、片や少子というと、子どもさんの数が少なくなってくる、そうなると働いて税金を払ってくれる人たちが少なくなるというのを意味します。ですので、これからはかつての日本、高度経済成長のときがそうだったように、大きな道路をどんどん郊外に延ばしていく、そして下水道をどんどん延ばしていくというふうにはならない。そんな中で松山は非常に可能性が高いところです。なぜかというと、平たん部が多い。ですから歩いてください、自転車に乗ってくださいというのがまだできます。坂がいっぱいだったらなかなかできない。そして、都市の機能が中心部に集約されています。役所、銀行、学校、医療機関、都市の機能が中心部に集約されています。そして、それを取り囲むように路面電車があります。公共の交通機関、バス、電車があります。さっき申し上げたとおり、およそ１，８００自治体があるんですけど、路面電車があるまちは１７だけ、その中の１つが松山です。これからのまちづくりでよくでるのが、ＴＯＤのまちづくりっていうんですけど、これができるまちなんです、松山は。Transit輸送を、Oriented適用させて、Development発展させるという考え方。平たくいうと商業地、いわゆる中央商店街、商業地と住宅地、商業地とマンションを隣接させて、公共交通をもっと利便性の高いようにして、都市を発展させるというＴＯＤという考え方が今、国土交通省、環境省、厚生労働省を中心に出ているんですけど、そのまちづくりができるのが松山なんです。花園町、社会実験させていただきましたけども、もう車の通行量からすると、全盛期の半分ぐらいになってるんですね。ですから、電車複線、２車線ずつの車道、イチョウ並木、副道、アーケード商店街という市内で一番広い４０メートルの通りですけども、もう車半分ぐらいになってますから、左折右折はちゃんと配慮させていただくけれども、車の道路をちょっと狭くして、歩く人そして自転車の人に、もっと歩きやすい、自転車で通りやすい空間改変をしましょうというのが花園町の社会実験なんです。社会実験ですから「いいですよ」「悪いですよ」そんな声が出てきて当然。ロープウェイ街の以前の社会実験のときには市役所の電話が鳴り続けたそうですけども、今回花園町はほとんど電話ならなかったそうです。社会実験ですので、もちろん地元の皆様と一緒に計画をしっかりといいものにしていきたいと思っております。あと５分くらい、もしよろしかったら。

【男性】　私が今からお話するのは、先ほど、市長が松山のたからみがきですか、よそからの人、松山市外からの人を呼び込むための何か光るものを探そうということをやっていますが、今、皆さんご承知のように市内電車、道後とＪＲの駅前、古町、市駅間、新しい形の坊っちゃん列車、それに関連しての話です。ＪＲ山口線とか大井川鉄道におきましては、ＳＬ、蒸気機関車とか電車の古い車両の、実際の運転が行われて注目されております。そこで、松山市におきましては、最新の装置を備えて現代に蘇った坊っちゃん列車でありますけども、これを市内じゃなくて、郊外に延ばしたらどうだろうという話。春は菜の花の中、夏は入道雲の沸き立つ皿ヶ嶺のふもと、瀬戸内の海岸沿いとか、秋は紅葉を背景として、咲き乱れるコスモスの中とか、冬は白銀に輝く石鎚を背景にして、冬晴れの道後平野を走らせるという郊外電車、高浜線、横河原線、できれば郡中線も走らせたい、横河原線と郡中線は単線ですので、ちょっと今のままでは厳しいけれども、高浜線は高浜の駅のところだけが単線になりまして、ほかのところは複線になってますので走らせることは可能だと、ちょっと線路の整備というのは必要になりますけども。終点の高浜とか、手前の三津では、それこそアジの干物とかほかの海産物が売れんかという思いも。横河原まで延ばすことができましたら、皆さんご承知かと思いますけど、横河原の駅前にアイスキャンディ屋さんがありますから、そういうのを土産にすることできるんじゃないかという話。郡中線であれば出合の「若鮎の二手になりて上りけり」子規ですかね、俳句の風景ありますし、それぞれの風景、郷愁があります。特にこの路線の大手町駅前と古町駅では、路面電車と郊外電車が交差する全国でも珍しい地点になります。全国でいわゆる鉄ちゃんとかいって鉄道ファン、鉄道を追いかける人たちにとっては有名なところです。これがもし、郊外にも走らせることが可能になれば、新たな人を呼び込む力になる、一助になるんじゃないかという思いがあります。高浜線だけであれば、高浜駅構内に複線化すれば可能かと思いますので、提案ということでよろしくお願いします。

【市長】　大変夢のある話で、私も坊っちゃん列車が郊外電車走ったらええ風景やろうな、お客さんようけ来るやろうな、ほんなら松山の地域経済効果にもなるやろなと思っておりますけども、これ結構出てくる話で伊予鉄道さんの回答があるんですよね。方針が。

【都市政策課長】　現実的な問題いうのがやはり出てきます。例えば、車両の重量、普通の郊外線と坊っちゃん列車の重量の違いによって、例えば踏切の反応、踏切で重量によって電車が来ますよいうて踏切の信号をおろすとか、それで、また速度も違うわけです。郊外電車は時速が５０キロ、坊っちゃん列車が２０キロとか速度が違いますので、郊外線になかなか適用されにくいとか、またホームの高さも違います。そういういろんな課題があるんですけど、今のところは非常に難しいと思いますけど、こういうお話は夢のあるお話ですから、また我々も頭の中でしっかりととどめておきたいと思います。ありがとうございました。

【市長】　例えば皆さんが要望書とか、皆さんがすごいまとまって絶対乗るよとかなるとまた風向きも変わってくるのかもしれないですね。あまり軽率には言えないですけども、はい。ちょっと時間を延長させていただいて、３５分までやらせていただきました。皆さんの手も大体一巡したようですので、このあたりでお開きとさせていただきたいと思います。

今回、様々ご意見をいただきまして、できるもの、また、できそうなものといったほうがいいですかね、また、ちょっと検討させていただかなければならないものというのがいろいろありました。１カ月をめどに必ず返答させていただきますので、また、それで皆さんのご意見、我々の意見、市の方針、こう積み重ねていってよりよいまちづくりにつなげていければと思います。最後に、市役所といいますけども、私が考えておりますのは、市民の皆さんの役に立つところで市役所でなければならないと思っております。案外、市役所って敷居の高いところじゃなくて、結構、相談していただいたら実はこんな方法があるんですということもお話することもできますので、敷居が高いとか役人とか考えないで、人同士でありますので、どうか来ていただいて相談していただいたら、できることもまた増えていくと思いますので、これからも東雲のまちづくりに力を貸していただいたらと思います。今日は長時間にわたりましてお世話になりました。ありがとうございました。

――　了　――